

1. はじめに

現在、武蔵浦和駅周辺地区においては、再開発による人口増加が続いており、すでに課題規模・大規模校が多く生じている状況です。今後、ますます人口の偏りが拡大した場合、さらに学校規模の不均衡も拡大し、教育活動に支障が生じることが予想されます。そのため、教育の質の向上には、学校規模の不均衡の解消が、喫緊の課題となっています。

そこで、義務教育9年間を一貫した教育活動による子どもたちの学びの充実と、武蔵浦和駅周辺地区小・中学校における学校規模による課題の解決を目的として、浦和大里小学校、内谷中学校の2つの校舎と、沼影公園と沼影小学校の土地の一部を一体的に活用し建設する新設校舎を合わせた、3つの校舎からなる学園構想による義務教育学校を整備します。ユニット制の導入により、大きな規模であっても、「個に応じた学び」とたくさんの仲間との「ダイナミックな学び」を掛け合わせた本義務教育学校ならではの学びの環境を創出します。

さらに、本義務教育学校は地域の学習資源として子どもから大人まですべての市民が学び合い、教え合い、支え合う「生涯の学びの拠点」として整備します。市民の文化・芸術活動やスポーツなど、多世代の市民が集い、つながることで学びを広げ、深めることのできる学びの環境を創出します。

学校という学び舎において、大人が楽しそうに学ぶ姿は、子どもの生涯学習のロールモデルとなります。また、大人と子どもが学びのパートナーとして共に学習することで、その学びが実生活や学校・地域の活動に生かされ、「学びと活動の循環」が生まれます。このようなことが、一人ひとりの生きがいの創出や幸せの実現へとつながり、学校と地域が元気で豊かになることが期待されます。

2. 沼影校舎（新設校舎）の計画概要

所在地 さいたま市南区沼影2丁目7番35号外
敷地面積 約31,000㎡
用途地域 準工業地域
高度地区 指定なし
建蔽率・容積率 60%・200%
用途 義務教育学校
構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上5階建
延べ面積 約34,000㎡（付属棟除く）
概算工事費 約183億円*（外構工事費、校庭整備費等は除く）
※資材価格高騰、労務費上昇等により変更となる場合があります



3. ユニット制について

本義務教育学校では、個に応じたきめ細やかな教育活動を展開するにあたり、700~800名の児童生徒を1つのまとまりとするユニットを構成し、学園全体を5つのユニットにすることとします。

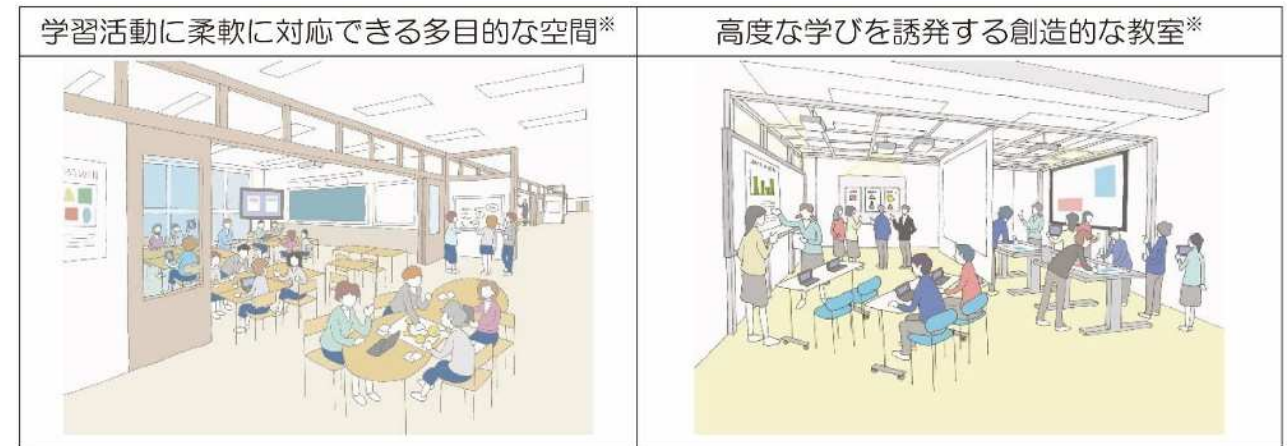
浦和大里校舎に通う義務1~4年生をユニット1、内谷校舎に通う義務1~4年生をユニット2、沼影校舎に通う義務5~9年生をユニット3~5とします。

4. 施設整備の基本的な考え方

本義務教育学校を整備するにあたっての、基本的な考え方を以下に示します。

(1) 高機能かつ多機能で変化に対応できる柔軟性・可変性のある施設

- ICTの活用による時間や場所に限定されないシームレスな学びが可能な施設
- ユニット制により、学年・学級の枠組みを超えた協働的な学び等の多様な学習活動に対応できる空間の整備



(2) 生涯の学びの拠点となる地域に身近な学校施設

- 地域の方々が気軽に立ち寄り、憩いの場となる環境
- 学校と地域や社会が連携・協働し、ともに創造的な活動を企画・立案したり、交流したりするための共創空間の整備



※空間イメージについては、文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告より抜粋

(3) 安全・安心で誰もが使いやすい学校施設

- 誰もが使いやすいユニバーサルデザインの導入及び災害時における避難所としての機能強化
- 新しい生活様式を踏まえ、健やかに学習・生活できる衛生環境の整備

(4) 総合的かつ長期的な視点に立った変化に対応できる学校施設

- 本地区における将来的な学校規模の変化に柔軟に対応できる施設
- 他の用途への転用を見据えた改修しやすい施設
- 脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な教育環境を整備

5. フロア構成と平面計画

(1) 教室配置の考え方（フロア構成）

- ・特別教室エリアは1・2階に集約します。児童生徒にとって教科の学習を行う場になるとともに、学年・学級の枠組みを超えた協働的な学びの場となります。また、地域にとっても生涯の学習の学びの拠点となります。
- ・教室エリアは1階の特別支援学級と3階以上に配置します。児童生徒が授業で使用するほか日常の学校生活を送る、各ユニットの専有の活動スペースとします。
- ・地域交流エリアや学園モールは、児童生徒の安全確保の観点からセキュリティ対策を十分に講じた計画とします。

■フロア構成イメージ



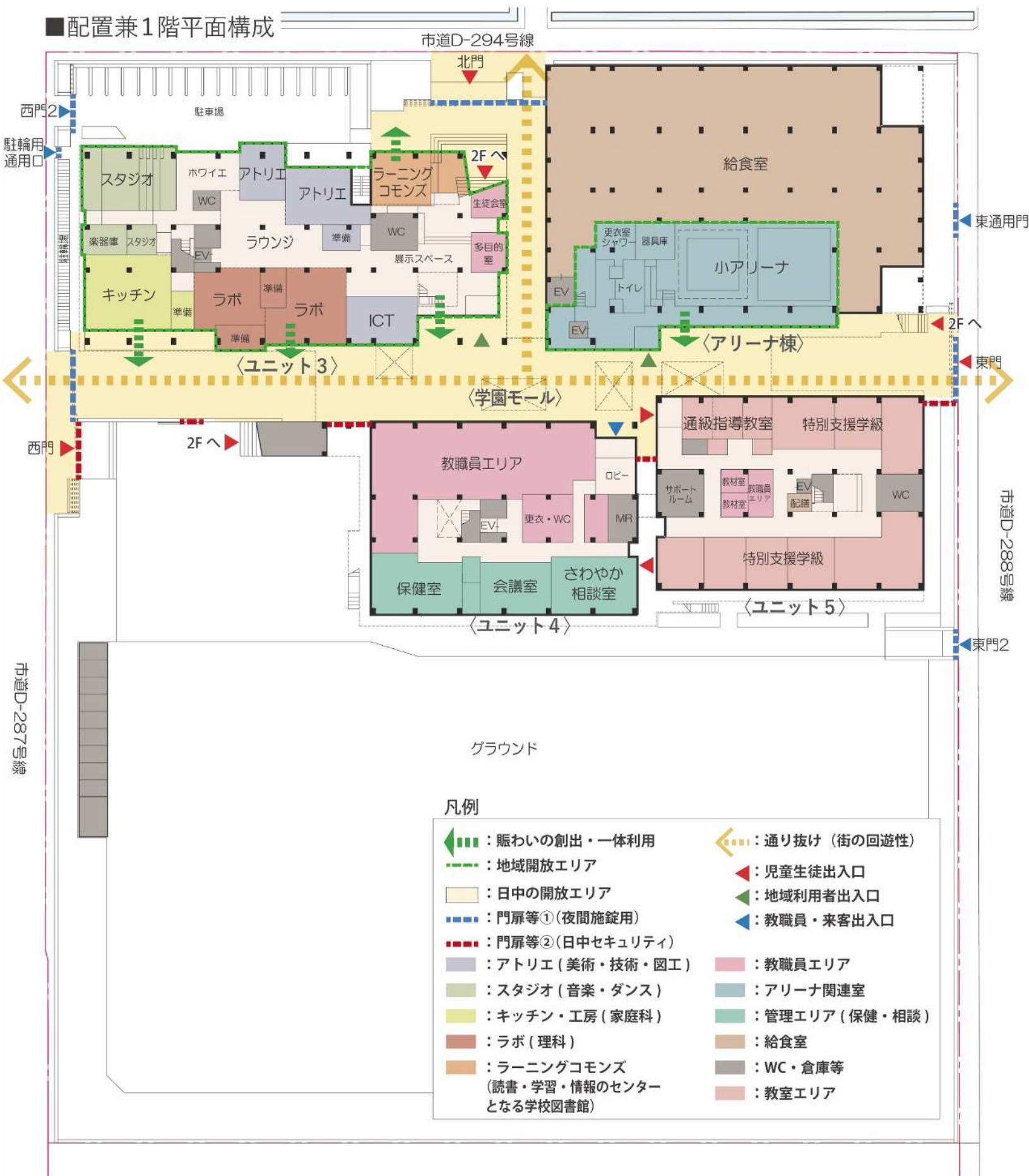
(2) 生涯の学びの拠点となる地域に身近な学校施設（1・2階、アリーナ）

①地域の方々が気軽に立ち寄り、憩いの場となる環境

- ・地域と学校を繋ぐ「学園モール」を整備します。
- ・「学園モール」は児童生徒の安全を確保したうえで、開放することで街の回遊性を高めるとともに、地域の憩いの場として利用できる空間を提供します。

②学校と地域が連携・協働し、ともに創造する共創空間

- ・1・2階の特別教室（キッチンやスタジオ等）やアリーナは、地域に住む多世代の人々が連携・協働していく「地域交流エリア」としても活用できるよう整備します。
- ・1階の「地域交流エリア」を「学園モール」に面して配置することで、活動の様子が伝わるとともに、一体で活用することも可能となります。
- ・1・2階や地域交流エリアは、地域と学校が互いに連携・協働し、ともに創造的な活動を企画・立案・実行していくための共創空間としていきます。



(3) 多様な学習活動を可能にする柔軟性・可変性のある学校施設（施設全体）

①教科の枠にとどまらない横断的な学びを促進

- ・1階特別教室は様々な教科の特別教室（アトリエ・キッチン・スタジオなど）を1つのエリアにまとめて配置することで、教科の枠にとどまらない横断的な学びを促進します。

②探究的な学びを促進

- ・2階特別教室は教科ごとにまとめた配置とすることで、スケールメリットを生かし、児童生徒の主体的な学習が展開でき、探究的な学びを促進します。

③個別学習やグループ学習にも対応

- ・本やインターネットで調べたり、ディスカッションをしたり、資料を整理したり、プレゼンテーションを行ったりと、様々な学習活動を可能にする、ラーニングcommons（読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館）を整備します。

(4) 地域防災力の強化に貢献する施設計画（1・2階）

①防災機能について

- ・大規模校である需要に伴い屋内活動スペースとして大・小2つのアリーナを計画します。有事の際には、災害の状況や規模に応じて大小のアリーナを柔軟に活用する計画とします。
- ・水害を想定し、主要な避難所となる1,600㎡規模の大アリーナを2階に計画し、地域の安心安全に寄与します。大アリーナには防災備蓄倉庫を隣接配置し、有事の際の利便性に配慮します。
- ・大アリーナには災害時にも使用できる空調設備を導入します。
- ・浸水対策として受変電設備を浸水の恐れのない位置に設置します。

②災害状況に応じて対応可能な施設計画

- ・学園モールは帰宅困難者の受け入れスペースや救援物資の荷解きスペース等に活用可能です。

(5) 脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な教育環境の整備（施設全体）

- ・省エネにより基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費の削減を実現する ZEB Ready の達成を目指します。
- ・代表的な再生可能エネルギーである太陽光を利用する太陽光発電を行います。
- ・蓄電池と組み合わせることにより、災害時でも一定の電気を使用できるようになり、防災力の強化にも貢献します。

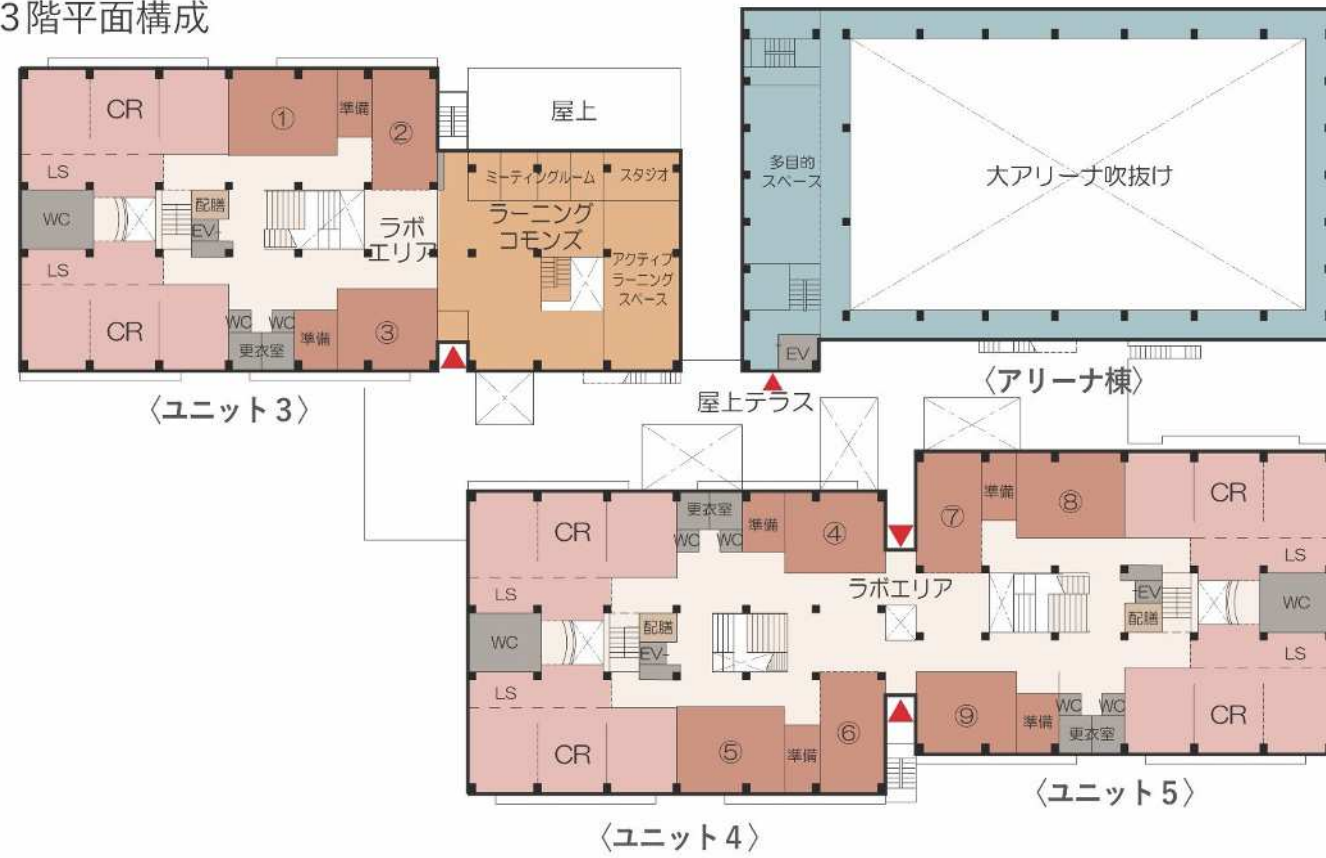
■2階平面構成



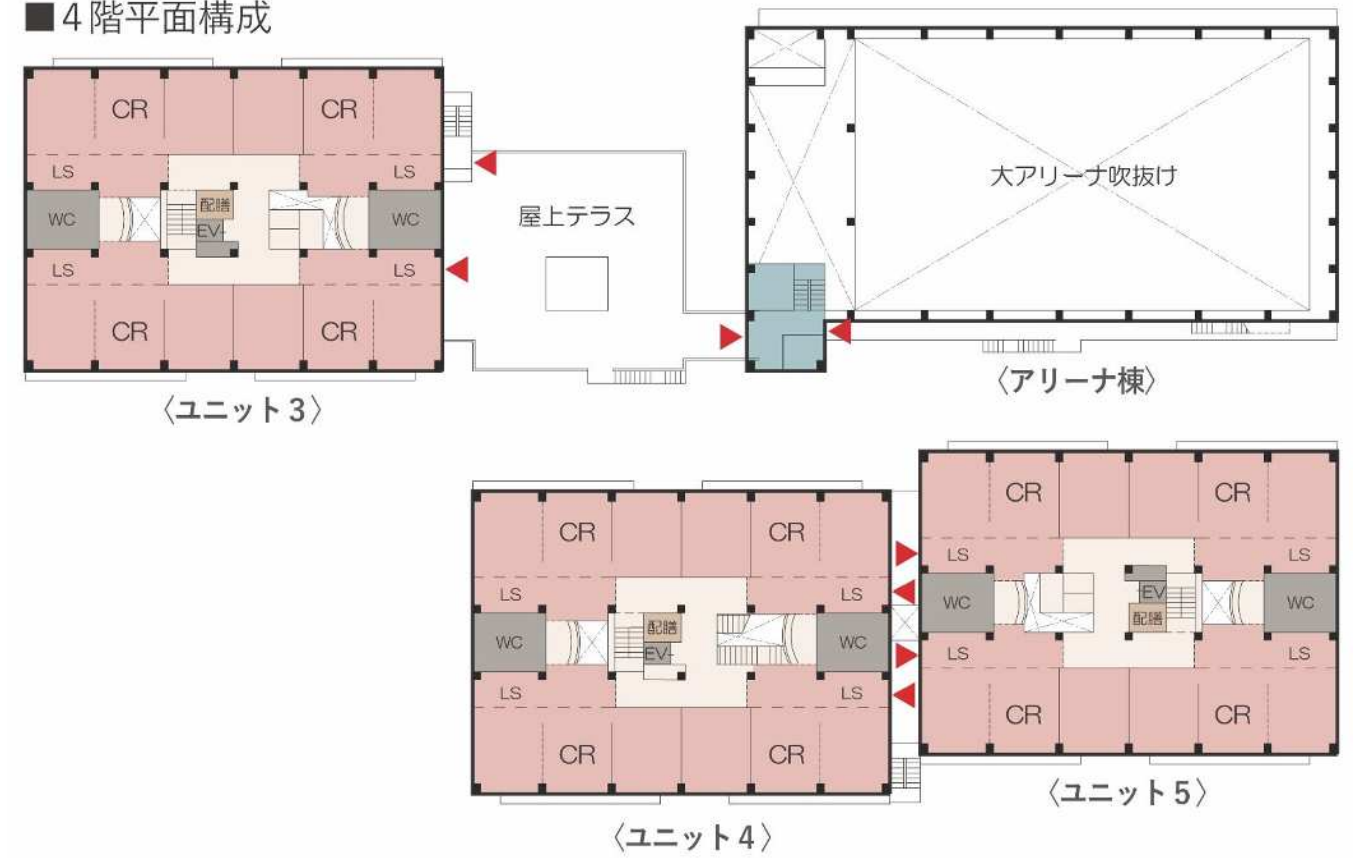
凡例

◀	児童生徒出入口		
■	アトリエ（美術・技術・図工）	■	教職員エリア
■	スタジオ（音楽・ダンス）	■	アリーナ関連室
■	キッチン・工房（家庭科）	■	WC・倉庫等
■	ラーニングcommons （読書・学習・情報のセンター となる学校図書館）		

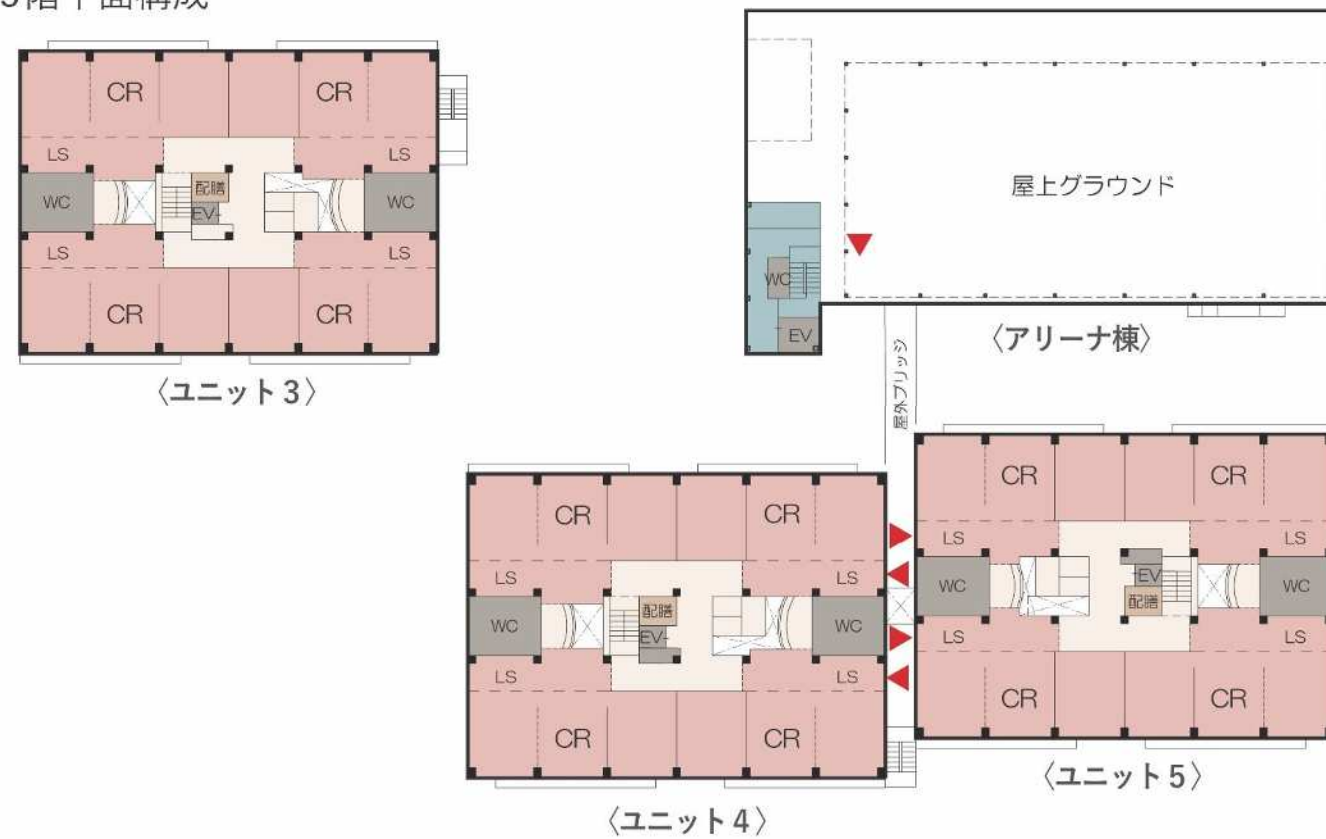
■ 3階平面構成



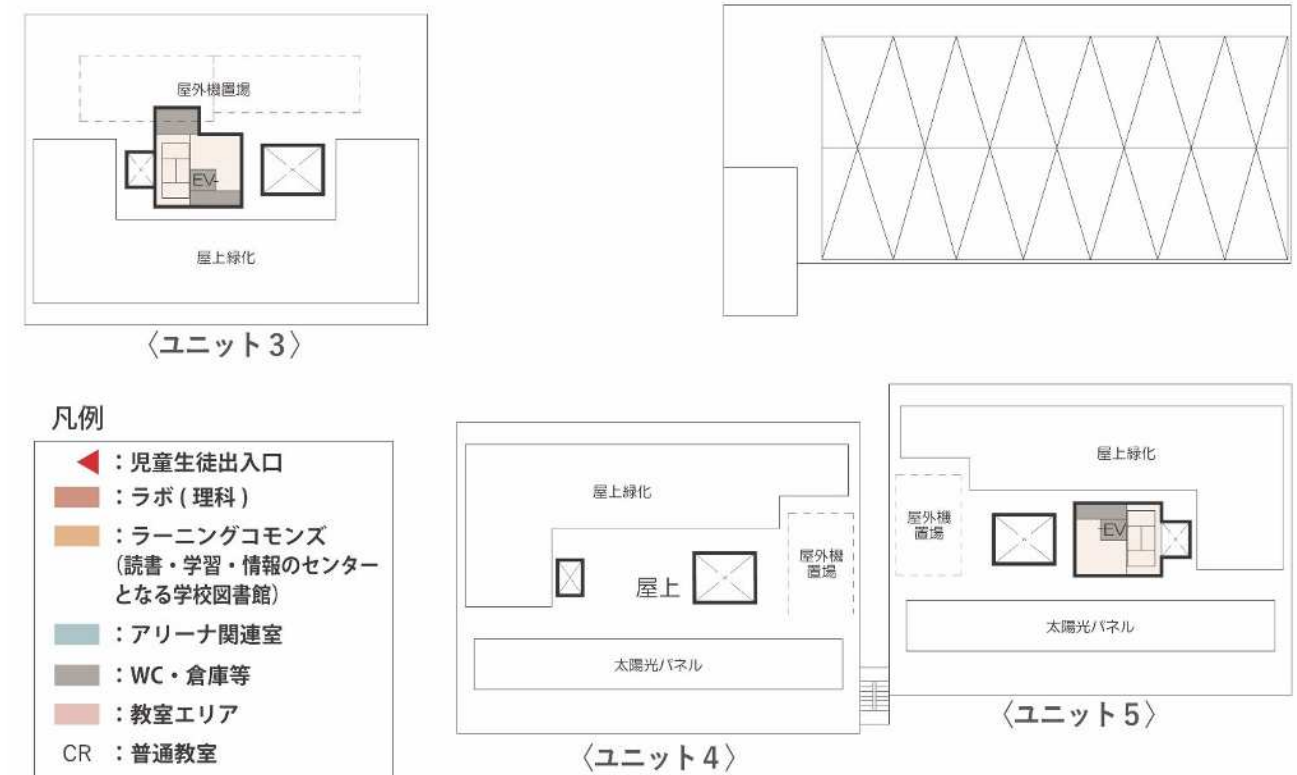
■ 4階平面構成



■ 5階平面構成



■ 屋上階平面構成



凡例

- ◀ : 児童生徒出入口
- (茶色) : ラボ (理科)
- (オレンジ) : ラーニングcommons (読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館)
- (水色) : アリーナ関連室
- (灰色) : WC・倉庫等
- (赤茶色) : 教室エリア
- CR : 普通教室
- LS : ロッカースペース
- WC : トイレ

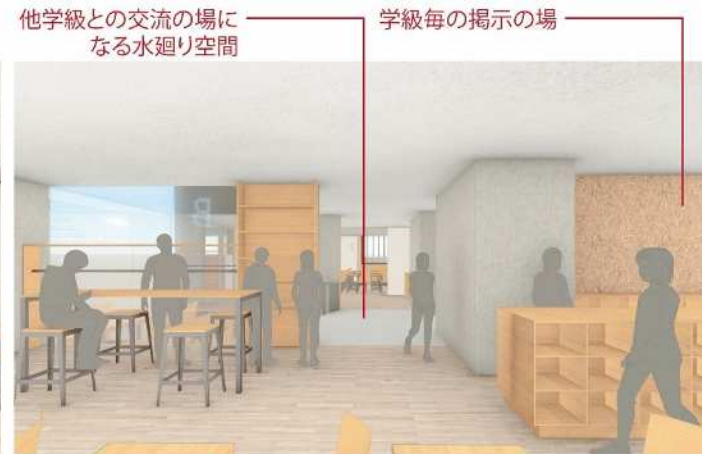
6. 教室のレイアウト案

- 3階以上に配置する教室は学級ごとにまとまりを持たせると同時に、学習内容に応じた可変性のある教室とするため、教室間の設えを可動間仕切り（パーティション等）とする計画とします。
- パーティション等はホワイトボードやスクリーンとしても使用できる材料とすることにより、場所に限定されない連続した学びの場を創出します。

下は俯瞰図の①～⑥から見たイメージ



① 1クラスで独立した利用イメージ



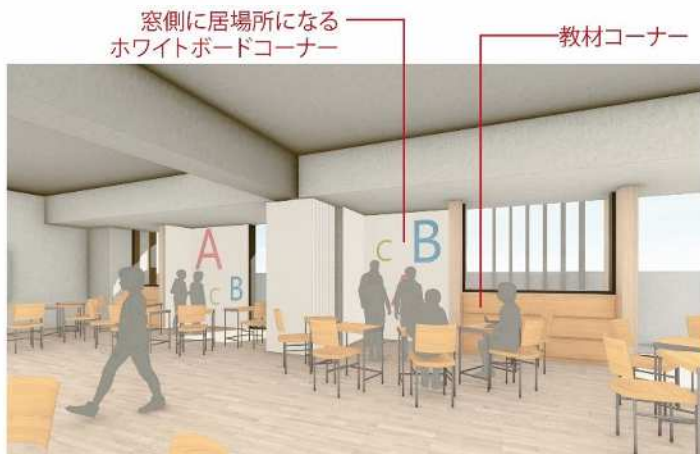
② 同学年の他学級と程よい距離感をつくる共用部



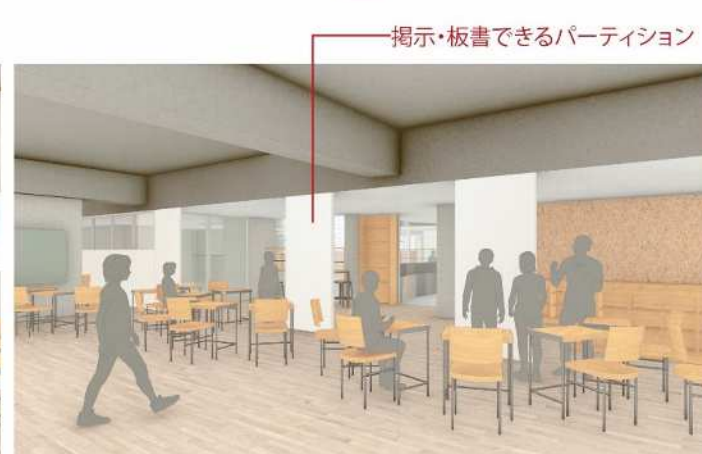
③ 教室間移動に配慮した共用部ロッカースペース



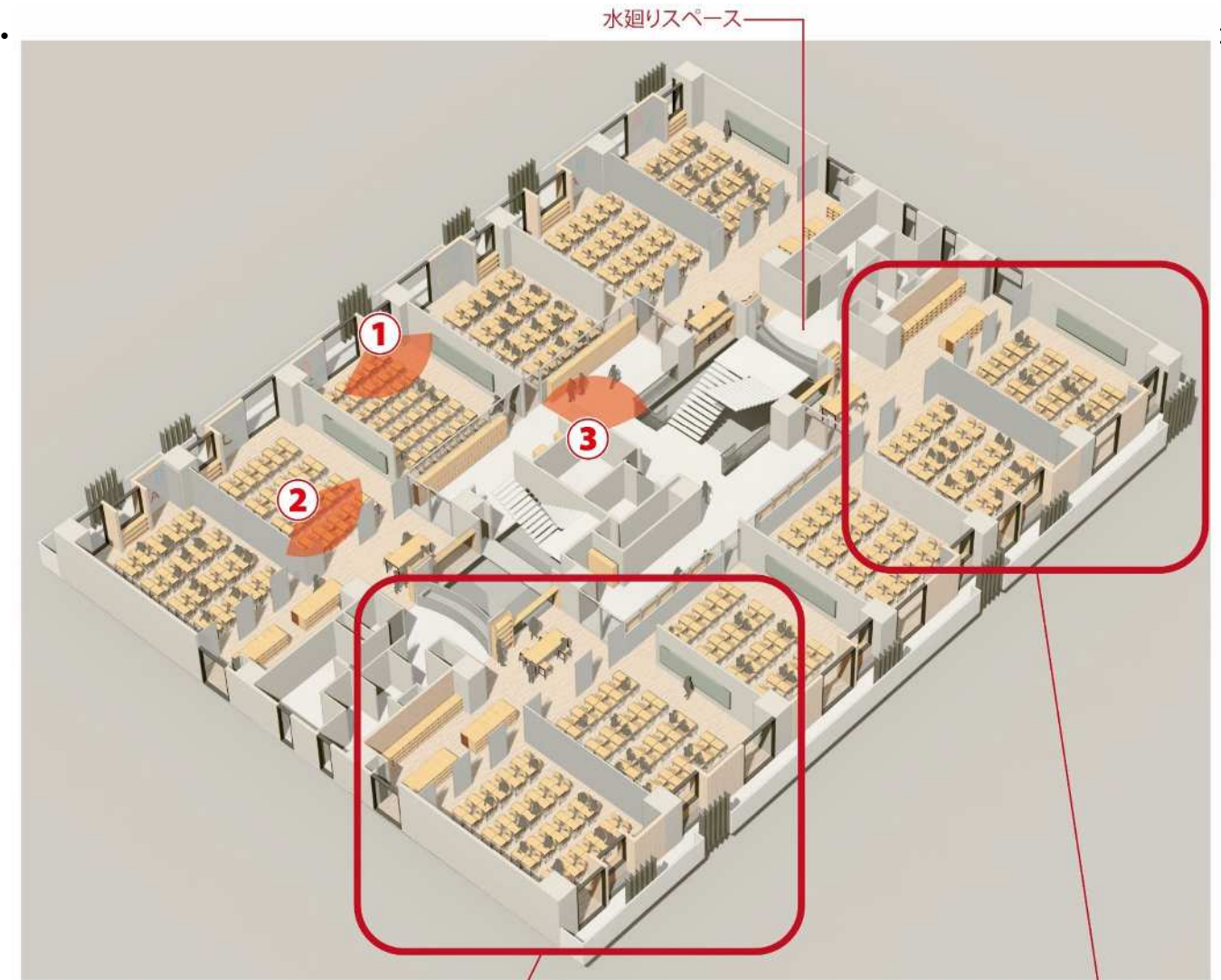
④ 児童生徒の居場所となるスペース



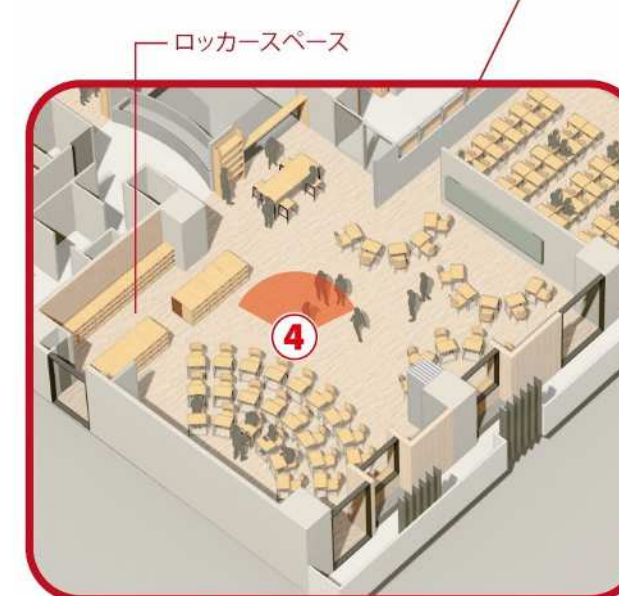
⑤ 窓側の壁面もホワイトボードやスクリーンとして利用



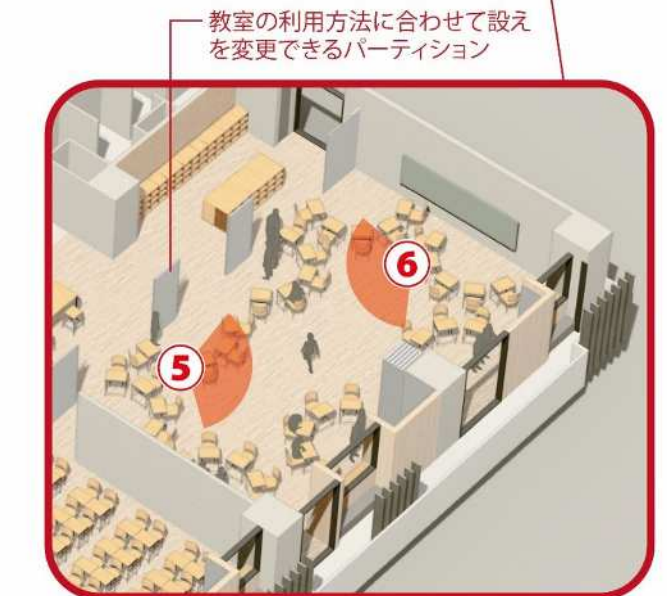
⑥ パーティションを利用したグループ学習



俯瞰図



ロッカースペース



教室の利用方法に合わせて設えを変更できるパーティション

可動間仕切りによりオープンな利用方法のできる教室計画



外観イメージ

※パースはイメージであり今後変更となる可能性があります



外観イメージ

※パースはイメージであり今後変更となる可能性があります

まちに調和し、地域住民と児童生徒にとって親しみやすいファサードデザイン

CONCEPT

- ・大規模校のスケールの大きさや圧迫感を軽減し、まちに調和するデザイン
- ・フロア構成(学びの構成)に対応した3層構成のデザイン
- ・教室内での学びを展開させる壁が学校の表情となる外壁面のデザイン
- ・チームのまとまりを外部に表出し、帰属意識をもたせるバルコニーデザイン
- ・ユニットのまとまりや異学年の縦の繋がりを象徴する妻面のデザイン



西側道路から学園全体を見る / ユニットのまとまりや異学年の縦の繋がりを象徴する妻面のデザイン



北門からラーニング commons を見る / 地域住民と児童生徒にとって親しみやすいエントランス空間



西門から学園モールを見る / 地域住民と児童生徒にとって親しみやすいエントランス空間



正面パース / フロア構成(学びの構成)に対応した3層構成のデザイン
※パースはイメージであり今後変更となる可能性があります



チームのまとまりを外部に表出し、帰属意識をもたせるバルコニーデザインとアクティビティが表出する STEAMS フォーラムイメージ



内部の活動があふれ出す屋上テラスのイメージ



東側道路からアリーナ棟を見る / 北側に対する日影や圧迫感の軽減に配慮した層状（段状）のデザイン



東門から学園モールを見る



内観イメージ